

23年度

# パドラーズトピックスー21

## 秋田の自然と大曲の花火を楽しんでもらおう体験ツアー

東日本大震災で被災された気仙沼市南郷地区から、26名の親子連れを中心に、大曲の花火とカヌーに招待しました。花火会場近くの13駐車場にパドラーズの用意したテント村で秋田の自然と花火を楽しんでもらいました。



8月の26日の前日から泊まり込み、パドラーズ会員10名で気仙沼の皆さんとサポート会員全員のテント18張り準備をしました。



栗林大仙市長さんから気仙沼の皆さんを招待するお話をしたところ、わざわざ花火当日のお忙しい中キャンプ地まで足を運んでいただき、気仙沼の方たちへのメッセージを皆さんが来る前に持ってきてくれました。



心温まる市長からのメッセージを代読する中村理事です。

震災から一瞬にしてすべてが変わってしまった被災地では、当たり前のことのように自然の中でゆっくりと心から楽しむことを奪われ、まして親子で一緒に過ごすことさえ出来ない方たちがたくさんいることを知り、また今までのパドラーズの活動を通して気仙沼の地元の方たちの協力の下、大曲の花火を是非被災地の子供たちに見せたいと思い、あきたスギッチファンドの協力を得て行われました。



子供たちと会場の雄物川でカヌー体験したり、秋田学生震災復興支援ネットワークの学生さんの協力で、ゲームやボール遊びをしながら花火までの時間を過ごしました。



パドラーズ会員でもあり、ダッチオープン協会の会長さんでもある黒川さんや山内さんが地元の新鮮な食材でおやつやトマトの丸かじりを用意してくれて私たちもおおいに喜んで頂きました。



栈敷席に花火弁当を持って、パドラーズの旗を先頭にはやる気持ちを抑えながら花火会場に移動しました。



大会提供花火には多くの拍手が沸き、期待感が込められていつもわくわくする瞬間です。  
招待した方は気仙沼でも花火はあるけどこんな規模の花火はないし、見たことがないと興奮気味で話していました。



花火終了後はキャンプ地に戻り、子供たちは線香花火を夜遅くまで楽しんでいました。

28日は大仙市玉川橋から雄物川北檜岡の採石場までのカヌーイングを行いました。



カヌースタートの玉川橋の下はごみが散らばり地元としては恥ずかしい光景でした。  
気仙沼の皆さんと一緒に片付けをしました。

安全講習会を行い、水の澄んだ玉川に漕ぎ出しました。



玉川と雄物川の合流地点での休憩はご覧のように大人の方のほうを子供を差し置いて川遊びになり、秋田の自然を楽しんでもらいました。



後日南郷の武田さんから下記のお礼状が届きましたのでお知らせいたします。

秋田パドラーズ様

先日の大曲花火大会におきましては心温まる交流会とお気遣いを頂きまして誠にありがとうございました。お陰さまで参加者全員が日本一の花火大会を堪能し、一生の思い出に残る経験をさせて頂くことが出来ました。参加者を代表し心より感謝申し上げます。

移動車両から宿泊場所の手配、被災者である我々のための激励会、食事、そして花火会場では敷席までもご用意いただき、また翌日のカヌーでは大仙市の大自然と触れ合い、子供以上に我々大人たちが興奮してしまったほどに、貴重な経験をさせていただきました。

参加者全員が一時的ではあったものの気仙沼市での辛い現実を忘れ、心から笑い合うことの出来た素晴らしい時間を過ごし、これからも続く被災地での生活への意気込みを新たに強く持つことが出来たに違いありません。我々を支援してくださる方々の想いを受け、負けず強く生きていけたなら、来年もまた行きたい、そう思っております。

この度は本当に素晴らしい思い出をありがとうございました。

最後に、参加者の一人が帰路の車内で私に話した内容を少し。

「東日本大震災からの半年が長かったのか、短かったのか分からないけれど、みんなの取り繕った明るい笑顔の裏には今も変わらず深い悲しみがあるに違いないよね。

私もその一人で、70年近く生きてきて、これほど辛くて悔しい経験もなかったし。

そんな心の中にしまっておこうと決めていた思いが、花火に感動して噴き出したのかな。

涙が止まらなくてね、折角あんなに素晴らしい席を用意してもらったのに、涙で滲んでしまった花火もあってね。

ばあさんと二人で、生きてて良かったな、また来たいねって泣き合ってしまった。

本当に素晴らしい冥土の土産ができたよ。今回は連れてきてくれてありがとう。」

NANGO-BASE

代表 武田雄高

